

## 令和4年度 データサイエンス・AI リテラシー教育プログラム 自己点検・評価

評価日時:令和5年4月18日(火)

開催形式:zoomによるオンライン

内 容:令和4年度「MDASHリテラシー」の自己点検・評価

※評価項目は、文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」に準拠する。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	教務課及び科目担当者において、プログラムにおける該当科目の履修・修得状況を把握・分析し、状況をまとめ、時間割や授業内容に関する点検をおこない、全学部・学科の学科長が参集する「学科長会議」において、報告・共有し、課題や履修者増に向けた改善方策の協議をおこなっている。 加えて、上記分析および点検・評価報告については、「教育改革推進会議」においても状況を把握し、必要に応じて前述の委員会に対して改善指示を与える。
学修成果	科目担当者においてその成績評価からの学習成果を把握・分析すると共に、修得状況(率)と授業アンケート結果を踏まえ、授業内容に関する点検・評価を行っている。 また学習成果の点検・評価報告については、「学科長会議」「教育改革推進会議」においてもその情報を共有し、本教育プログラムの評価・改善に活用して必要に応じて科目担当者に対して授業内容の改善などを指示する。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本教育プログラムの受講者全員に対して授業アンケートを実施し、本学 IR 関連業務を担当する「IR 推進室」がアンケート集計結果を取りまとめ、学生の理解度を把握・分析している。 分析および点検・評価報告については、「学科長会議」「教育改革推進会議」においてもその情報を共有し、必要に応じて授業内容等の改善を図る。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	受講者全員に対して実施する授業アンケート結果を元に、後輩学生や他の学生への受講を推奨するものとする。 なお、推奨機会については、本分野に関連する卒業必修科目(例:「コンピュータ演習」)などの授業前後や各学期初めのオリエンテーションを通じて学生に対して勧奨する。 また、今後はその推奨などの実施体制についても明確に確率するよう検討を進める。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	全学部・学科の学科長が一同に会し、協議及び意見交換する会議体「学科長会議」において、当プログラムの科目の履修状況を共有することにより、学科長を通じて学科所属教員へ履修状況が伝達され、履修指導によって履修者数・履修率の向上をはかる。 また、時間割配置において、他科目との重複を可能な限り避け、履修しやすい曜日・時限への配置を行うものとする。 さらに、全学的な履修者数、履修率向上に向けて、本教育プログラムの必修化の検討を進める。